

## 4 主語・述語・修飾語テスト1

問一 主語と述語をそれぞれ選べ。

- 一
  - ① 赤い大きなグリアが美しく咲いた。
  - ② 早く火を消さなければ燃えるよ、おうちが。
  - ③ 家では太郎は少しも勉強しません。
  - ④ 何かが落ちる音を聞いて、私は振り返った。
  - ⑤ 里にはもう梅の花さえちらほらと。
  - ⑥ じっと静かに話を聞きました。
  - ⑦ 兄弟のなかで妹の部屋だけたいへん小さい。
  - ⑧ 急に強い風がふいてきた。
  - ⑨ 長いあいだ私が待ち望んだものが、ついにきた。
  - ⑩ 展望台からは、船が小さくプラモデルのように見えた。
- 二
- ① 親鳥はやさしくひなを守っている。
  - ② 先生の一言、それが身にしみた。
  - ③ 風が吹き、雨が降っても、私は図書館に通った。
  - ④ 多分母はそれを聞いて喜ぶだろう。
  - ⑤ あの黒っぽい鳥がこの前話したかささぎだ。
  - ⑥ あなたのお名前は。
  - ⑦ SF小説を読むのが、何よりも好きだ。
  - ⑧ もうねちゃったよ。
  - ⑨ 難しいですね、この問題は。
  - ⑩ 弟を連れてほくも道を渡った。
- 三
- ① 地球には非常に多くの人間が住んでいる。
  - ② 夜になって雨がとても強くなった。
  - ③ 真っ黒な大がらのからすが空を飛ぶ。
  - ④ おや、とうとう食へてしまいましたね。
  - ⑤ 買い物をしたあとには五百円だけ残った。
  - ⑥ どちらまで。
  - ⑦ タケノコがすくすくと大きくのびる。
  - ⑧ 夏は、私が一年中で最も愛する季節だ。
  - ⑨ これはすばらしく大きなエメラルドだ。
  - ⑩ この問いが解けた人に、先生がごほうびをあげます。

四 ① 旅行に行った姉が私に手紙をくれた。

- ② 月が美しい今夜は、十五夜だ。
  - ③ その意見に賛成したものは、たった一人だった。
  - ④ きれいな水がとても速く流れる。
  - ⑤ ともされたろうそくの火が、静かにゆらめく。
  - ⑥ 私が大声で助けを呼んでも、だれも来なかった。
  - ⑦ 早く捨てなさい。
  - ⑧ 去年の暮だった、京都にふらりと行って見たのは。
  - ⑨ それは、森の奥からくる、すがすがしい風だった。
- 五
- ① 皿にはりんごやみかんがたくさん盛られていた。
  - ② 雨が降りそうだと、私は空を見上げながら考えた。
  - ③ 夜になったらポツポツと大つぶの雨も降ってきた。
  - ④ 君は見たか、ついに明らかにされたなぞの物体を。
  - ⑤ 本当に世の中にあるのだろうか、そんな不思議な話が。
  - ⑥ 用心深い親鹿も、どうやら少しは警戒を解いたらしい。
  - ⑦ きれいな声でリーリーンと鳴くんだ、すずむしは。
  - ⑧ しかはいつもここへ集まると、父は歩きながら言った。
  - ⑨ 何と美しいんだらう、ダイヤモンドの輝きは。

六 ① 春のたんぽぽに代わって、初夏の野道をかざる花は水

- 玉模様シロツメクサです。
- ② 私は、まだどんなふうになっているのか知らないの、のんきに鏡を見に行った。
  - ③ 大阪では「なのおす」という言葉を「しまう」という意味で使う場合が多い。
  - ④ 真っ赤でおいしそうなりんごが、枝もたわわになっている。
  - ⑤ 少年の心臓は、また、さっきのようにどきどきと鳴った。
  - ⑥ けたたましいサイレンの音をたてながら、パトカーが目の前を通りすぎた。
  - ⑦ 子鹿はあちこちはね回っていたが、親鹿はじっと様子をつかがっていた。
  - ⑧ かりは一団になって、空気もやわらかい、静かな、風のない、夕方の空を選んで、飛んで行く。
  - ⑨ 二、三日前の昼に、わたしも、花だんの近くで一生懸命歌を歌っている下級生の女の子を見かけたよ。
  - ⑩ 柿は人々の生活と、あまりにも身近な存在であったため、渋いわけ役として重要な割は果たすものの、華々しい主役にはなれなかったのだらう。

## 4 主語・述語・修飾語テスト1

問一 解答 主語と述語をそれぞれ選べ。

① 赤い大きなグリアが美しく咲いた。

② 早く火を消さなければ燃えるよ、おうちが。

③ 家では太郎は少しも勉強しません。

④ 何かが落ちる音を聞いて、私は振り返った。

⑤ 里にはもう梅の花さえちらほらと。

⑥ じっと静かに話を聞きました。

⑦ 兄弟のなかで妹の部屋だけたいへん小さい。

⑧ 急に強い風が(吹いて)きた。

⑨ 長いあいだ私が待ち望んだものが、ついにきた。

⑩ 展望台からは、船が小さくプラモデルのように見えた。

二 ① 親鳥はやさしくひなを守っている。

② 先生の一言、それが身にしみた。

③ 風が吹き、雨が降っても、私は図書館に通った。

④ 多分母はそれを聞いて喜ぶだろう。

⑤ あの黒っぽい鳥がこの前話したかさぎだ。

⑥ あなたのお名前は。

⑦ SF小説を読むのが、何よりも好きだ。

⑧ もうねちゃったよ。

⑨ 難しいですね、この問題は。

⑩ 弟を連れてぼくも道を渡った。

三 ① 地球には非常に多くの人間が(住んで)いる。

② 夜になって雨がとても強くなった。

③ 真っ黒な大がらのからすが空を飛ぶ。

④ おや、とうとう食へてしまいましたね。

⑤ 買い物をしたあとには五百円だけ残った。

⑥ どちらまで。

⑦ タケノコがすくすくと大きくなる。

⑧ 夏は、私が一年中で最も愛する季節だ。

⑨ これはすばらしく大きなエメラルドだ。

⑩ この問いが解けた人に、先生がごほうびをあげます。

四 ① 旅行に行った姉が私に手紙をくれた。

② 月が美しい今夜は、十五夜だ。

③ その意見に賛成したものは、たった一人だった。

④ きれいな水がとても速く流れる。

⑤ ともされたろうそくの火が、静かにゆらめく。

⑥ 私が大声で助けを呼んでも、だれも来なかった。

⑦ 早く捨てなさい。

⑧ 去年の暮だった、京都にふらりと行って見たのは。

⑨ それは、森の奥からくる、すがすがしい風だった。

五 ① 皿にはりんごやみかんがたくさん(盛り)られていた。

② 雨が降りそうだと、私は空を見上げながら考えた。

③ 夜になったらポツポツと大つぶの雨も(降って)きた。

④ 君は見たか、ついに明らかにされたなぞの物体を。

⑤ 本当に世の中にあるのだろうか、そんな不思議な話が。

⑥ 用心深い親鹿も、どうやら少しは警戒を解いたらしい。

⑦ きれいな声でリーンリーンと鳴くん、すずむしは。

⑧ 鹿はいつもここへ集まると、父は歩きながら言った。

⑨ 何と美しいんだろう、ダイヤモンドの輝きは。

六 ① 春のたんぽぽに代わって、初夏の野道をかざる花は水

玉模様のシロツメクサです。

② 私は、まだどんなふうになっているのか知らないの、のんきに鏡を見に行った。

③ 大阪では「なのおす」という言葉を「しまつ」という意味で使う場合が多い。

④ 真っ赤でおいしそうなりんごが、枝もたわわになっ

ていている。

⑤ 少年の心臓は、また、さっきのようにどきどきと鳴っ

た。

⑥ けたたましいサイレンの音をたてながら、パトカーが

目の前を通りすぎた。

⑦ 子鹿はあちこちはね回っていたが、親鹿はじっと様子

を(うかが)っていた。

⑧ かりは一団になって、空気もやわらかい、静かな、風

のない、夕方の空を選んで、飛んで行く。

⑨ 二、三日前の昼に、わたしも、花だんの近くで一生懸

命歌を歌っている下級生の女の子を見かけたよ。

⑩ 柿は人々の生活と、あまりにも身近な存在であったた

め、渋いわき役として重要な割は果たすものの、華々

しい主役にはなれなかったのだろう。